2024年度
自己点検・評価報告書

学東アカデミー

日本語教育機関の告示基準 （法務省出入国在留管理庁、 平成28年7月22日策定、 平成30年7月26日一部改定、 令和元年8月1日一部改定、 令和2年4年23日一部改定）
第一条第一項第十八条 に従い、当校に関する自己点検・評価を行い、報告書を作成する。
I. 点検評価項目

評価方法
・A：「達成されている」 あるいは 「適合している」項目。
・B：「一部未達成」であるが、 1年を目途に達成あるいは適合が可能な項目。
・C：「未達成」あるいは「適合していない」項目。

１． 教育理念・ 目標

1.1	教育理念・ 目標	理念 ：進学のための日本語を教えるだけではなく、 身につ けた日本語を運用し、 学生自ら目標の達成を目指します。 そして、将来二つ以上の言語を使って活躍できる人材育成を目指し、国際社会の貢献に寄与します。 教育目標 ： 1. 一流大学の進学を目指します（東京大学、 早稲田大学、 慶応義塾大学等）。 2. 学力が十分な学生に対して、 大学及び大学院合格に必要な準備時間の短縮を目指し教育を行います。 3. 留学生が大学及び大学院進学後も講義についていけるような 読解力や文章力の教育も行います。また、 進学先では、日本人との交流が積極的に行え、日本語でのコミ ュニケーション 能力の向上を目指し教育を行います。 4. 日本での留学生活を通じて、日本文化と異文化を体験するとともに日本人の習慣・考え方の違いを知り、日本人の立場から物事を考えられる国際人を養成します。

点検・評価項目		評 価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
1.2	教育理念、目的、目標、育成する人物像が社会のニ ーズに合致している。	A Ⓑ C	開校前は中国からの学生のみの予定ですが、現在は難しい。	南アジアの学生中心である。	入学選抜を厳しくし、日本語学習能力が高い学生及び大学進学希望者を採用する	日本語能力試験 会話力
1.3	教育理念、目標に基づいて教育が行われている。	Ⓐ B C	開校から3年目に入り、南アジアの学生が増えているが、目標に基づいて教育している。	学生たちに将来の目標は何であるを常に認識させている。	授業中も学生たちとの対話を重視して授業を行う。	

総括	課題及び改善内容
	開校時に教育目標を設定し、それを達成するためのコースカリキ ュラムを作成した。それに従って現在まで教育を行ってきた。また、当校を卒業してそれぞれ希望する学校に入学できるようにすることが一番重要なことである。現在はただ、日本語能力試験に合格しても日本人とのコミュニケーションが取れなければ、進学してからも、またには就職してからも日本での生活は難しい。AI化がますます進み、AIが処理してくれる場合もある。しかし、せっかく日本に来て、日本語を学んだからには、自らの言葉で表現できなければいけないと考える。当校が教育理念に掲げているように、2つ以上の言語を使って、日本人の考え方を知ることも、これからの日本語教育では重要な部分であると考える。

２．学校運営

点検・評価項目		評 価	ア.現状認識	イ.アの根拠	ウ.解決方法	エ. 参考資料
2.1	日本語教育機関 の告示基準に適合している。	(A)B C	適合している。			
2.2	短期及び中長期の運営方針と経営目標が明確化され、教職 員に周知されている。	(A)B C	周知している。	開校前から設置代表者から教職員に伝えている。		
2.3	管理運営の諸規定が整備され、 規定に基づいた運営が行わ れている。	(A)B C	行われている。			
2.4	意思決定が組織的に行われ、 かつ、 効率的に機能している 。	A(B)C	教職員の間で情報を共有している。			
2.5	予算編成が適切に行われ、 執行ルールが明確である。	A(B)C	行われている。			
2.6	外部からの情報収集が効率的に行われ、 かつ、 共有化する 仕組みがある。	A (B)C	適宜に情報収集を行っている。	専門学校・大学の留学生担当者 と情報交換を行う。		
2.7	教育内容を含む最新、 かつ、 正確な学校情報を開示してい て、 入学志願者の理解できる言語で行うよう努めている。	A (B)C	入学希望者は日本語で対応できるので、問題はない。			
2.8	授業や運営に関する学生からの相談、 苦情等の担当者が特 定され、 適切に対処している。	(A)B C	教育と事務が 一体とな り、 対応している。			
2.9	業務の見直し及び効率的な運営の検討が定期的、 かつ、 組 織的に行われている。	A (B)C	今年度4月期より学生も増えたが、今学期終了後に検討する。	入学時の諸手続きなど学生への対応を検討する。		
2.10	校長、 主任教員による、 教員、 事務職員の統括ができてい る。	(A)B C	現在まで職員一致の下で、行っている。	毎日連絡及び伝達を行う。		

総括	課題及び改善内容
	昨年開校時より現在まで、 学校運営については事務、教務一体となって取りくんできた。 2-1：告示基準に適合している。 2-2.3.5：非漢字圏からの学生が今年４月に初めて入学した。今年度は試みとして少数選抜したが、来年度も定着する見込みである。選抜時に厳正な審査を行えば、これからも安定した学生数が見込まれる。

3. 教育活動の計画

点検・評価項目		評 価	ア． 現状認識	イ． アの根拠	ウ． 解決方法	エ．参考資料
3.1	理念・教育目標に合致した コー ス設定をしている。	(A)B C	留学2年、1年半 コースを設 置している。			
3.2	教育目標達成に向けたカリキ ュ ラムを体系的に編成し ている。	(A)B C	編成している。	年２回のJLPT合格を目標にしたカリキュラムを基に毎月授業計画を作成している。		
3.3	国内、 又は国際的に認知されている熟達度の枠組みを 参考にしてレベル設定をしている。	(A)B C	設定している。	熟達度は校内模試と月テストで判定している。		
3.4	教育目標に合致した教材を選定している。	(A)B C	選定している。	JLPTに合格できるような教材を選定している。		
3.5	補助教材、 生教材を使用する場合は出典を明らかにするとともに、 著作権法に留意している。 注： 教材等の 著作物 （電子媒体を含む） の複製について著作権法上 の制限事項・禁止事項を教員及び学生に伝えなければ ならない。	(A)B C	留意している。	教材は一括購入している。		
3.6	教育内容及び教育方法について教員間で共通理解が得 られている。	A(B)C	教育方法については難しい面もある。	特に非漢字圏の学習者の理解力	教え方を統一するために研修を行う	
3.7	教員の能力、 経験等を勘案し、 適切な教員配置をし て いる。	(A)B C	配置している。			
3.8	体験を生かした学習、 学生の興味・関心を生かした自 主的・ 自発的な学習など、 学生の主観面へのアプロー チを取り入れた授業運営ができている。	A(B)C	最近の学生は試験のために日本語を勉強している学生が多い。	日本語を使って積極的に話すが、グループで作業することは好まない。	４月～12月は試験対策に入るが、それから3月までの期間でグループで課題を与える。	

総括	課題及び改善内容
	3- 1～4： 学東アカデミーでは学校の授業だけでJLPT、EJUに対応できるカリキ ュ ラムを組んでいる。従って、それを達成するための教材を選定している。今年度からは、非漢字圏の学生も増えたため、漢字に対する対処方法も伝えていなければならない。通学途中で目にする日本語、身にする日本語に関心を持つきっかけとなると考え、毎日1つずつ発表するようにする。これらの表現は、日本人と交流する際にも役に立つものと考える。 3-5：著作権の制限事項を把握し教材を配布している。 3-6：学生の目標を達成できるように効果的な教育方法を取る。 3-8：今年度4月に入学した非漢字圏の学生も相手に日本語で質問したり、答えたりすることはできるようになった。しかし、自分からアピールしたら、何かを伝えたりすることは、まだ不足している。グループワークの経験がないため、「一緒に何かをする」ということは苦手なように思う。これからは課題を与えて、発表する機会を増やしていきたい。

4. 教育活動の実施

点検・評価項目		評 価	ア． 現状認識	イ． アの根拠	ウ． 解決方法	エ．参考資料
4.1	授業開始までに学生の日本語能力を試験等により判定し、 適切なクラス編成を行っている。	(A)B C	行っている。	JLPTの結果		
4.2	教員に対して、 担当するクラスの学生の学習目的、編 成試験の結果、 学習歴その他指導に必要な情報を伝達 している。	(A)B C	伝達している。			
4.3	開示されたシラバスによって授業を行っている。	(A)B C	行っている。	授業記録		
4.4	授業記録簿等を備え、 実施した授業を正確に記録して いる。	(A)B C	記録している。			
4.5	期間ごとの各課程の到達目標が達成できている。	A(B)C	ほぼ達成できている。	毎月、月テストを行い、JLPTの模擬テストを実施し、到達度をみる。	非漢字圏の学生にとって、漢字は一番難しい。四技能のうち三技能については特に問題ない。漢字を使って	
4.6	体験活動、 行事などの実施・管理体制ができている。	A(B)C	学年末に行う。	JLPTなど終わった後、消防体験などを行う。		
4.7	個別学習指導等の学習支援担当者が特定され、 適切な 指導・支援を行っている。	(A)B C	行っている。	家庭学習などの方法についてアドバイスを与える。		
4.8	特定の支援を必要とする学習者に対して、 その分野の 専門家の助言を受けている。	A(B)C	現在の状況において必要ないと考える。	経費支弁など問題ない学生である。		

総括	課題及び改善内容
	4-3.4：シラバス、カリキュラムに従って授業を行っている。 授業記録は毎日、記録している。 4-5：3-8で示した通り、今年度4月期・10月期の学生も日本語を使って質問したり、話したりすることはできるようになった。学習したことを使って話そうとすることは進歩が見られるように思う。日本人の習慣、他の国の習慣にも関心を持ってお互いに交流しているので、これからもこの時間を活かして、グループワークができるようにしたい。 4-7.8：進路指導、学習指導、生活指導、それぞれ教務と事務が協力して行っているが、今後も連携して指導にあたるが、来年度は在校生は全員進学するため、早めに進学先を決めて、それぞれの指導を行う。

5. 成績判定と授業評価

点検・評価項目		評 価	ア． 現状認識	イ． アの根拠	ウ． 解決方法	エ．参考資料
5.1	判定基準及び判定方法が明確に定められ、 適切に行わ れている。 また判定基準と方法を開示している。	(A) B C	行 ってきた。			
5.2	成績判定結果を的確に学生に伝えている。	(A)B C	伝えている。			
5.3	判定基準及び判定方法の妥当性を定期的に検証している。	A (B) C	開校から2年コースに入学した学生が修了した。現段階では判定方法は妥当だと思う。	2年間を通して、当校の試験の結果で判定を行っている。		
5.4	授業評価を定期的に実施している。	A (B) C	実施している。	学生から要望を聞く。		
5.5	評価態勢、 評価方法及び評価基準が適切である。	A (B) C	適切であると思う。	昨年度3月に初めて2年コースが修了したが、今後は非漢字圏の学生も増えるので評価基準はまた検討する。		
5.6	学生による授業評価を定期的に実施している。	A (B) C	実施している。	教え方の統一を図るため	授業見学	
5.7	授業評価の結果が教育内容や方法の改善、 教員の教育 能力向上等の取組みに反映されている。	A (B) C	いかにして学生に分かりやすく伝えるかということは課題である。			

総括	課題及び改善内容
	JLPTに合格率を上げるためには教員の指導力が重要であると考える。当校では教育理念・目標にも掲げるように試験で測れる日本語能力だけではなく、日本人とコミュニケーションが取れるようにすることも重要であると考える。したがって、教材はあくまでも自習するための手段と考え、授業中は積極的に会話ができるように指導している。決められたコース期間内で、日本語能力を身につけ、円滑なコミュニケーションが取れるように、そして希望する進学先に進学できるようにすることが重要である。この3つを効果的に教育できる教員の養成が必要であると考える。

6. 教育活動を担う教職員

点検・評価項目		評 価	ア． 現状認識	イ． アの根拠	ウ． 解決方法	エ．参考資料
6.1	校長、 主任教員、 専任教員及び非常勤教員の職務内容 及び責任と権限を明確に定めている。	A B C	定めている。			
6.2	教育目標達成に必要な教員の知識、 能力及び資質を明 示している。	A B C	明示している。			
6.3	教員及び職員の採用方法及び雇用条件を明文化している。	A B C	している。			
6.4	教育機関としての信頼を高めるため、 倫理観、 振る舞 い、 ハ ラス メント防止限を明確に定めている。	A B C	定めている。			
6.5	教員及び職員の評価を適切に行 っ ている。	A B C	今年度入学した学生は、半年未満の学生もいるため、今年度の終わりに評価を聞く。			

総括	課題及び改善内容
	6-4：現段階では特に問題はない。今後は多国籍のクラス編成になるので、異文化 へ の理解・言動について、問題になる恐れもあるので、教職員で話し合い必要がある。 6-5：教職員の評価は学生からの声が最も判断しやすいと考えるが、現在学生の中には明確な評価をつけることを拒む学生もいるため、難しい面もある。したがって、各教室にカメラを設置し、クラス活動が 見えるようにしている。

7. 教育成果

点検・評価項目		評 価	ア． 現状認識	イ． アの根拠	ウ． 解決方法	エ．参考資料
7.1	入学から修了・卒業までの学習成績を記録、 保管し、適正に 管理している。	Ⓐ B C	管理・保管している。	学生一人一人のファイルを作成し記録している。		
7.2	修了・卒業の判定を適切に行 っ ている。	Ⓐ B C	今年3月に最初の卒業生を送り出した。	大学に進学し、入学許可証を保管している。		
7.3	日本留学試験、 日本語能力試験等 の外部試験の結果を把握し ている。	Ⓐ B C	把握している。	結果のコピーを保管している。		
7.4	卒業または修了後の進路を把握している。	Ⓐ B C	把握している。	学生から、あるいは進学先から現在の状況の報告を受ける。		
7.5	卒業生及び修了生の状況を把握するための取組みを行い、 進 学先、 就職先等での状況や社会的評価を把握している。	Ⓐ B C	把握している。	進学先からは学期ごとに成績をいただいている。		

総括	課題及び改善内容
	7-1 ：開校してから2年コースの学生は卒業または修了し、進学した。修了した学生2名は、今年度専門学校を卒業する。1名は学生本人から内定もらったと報告がある。もう1名は就職活動中という報告を進学先から受けている。 7-4.5：今年初めて2年コースを卒業して、大学に進学した。この学生についても記録を残している。

8· 学生支援

点検・評価項目		評 価	ア． 現状認識	イ． アの根拠	ウ． 解決方法	エ．参考資料
8.1	学生支援計画を策定し、 支援態勢を整備している。	Ⓐ B C	入学前に日本での生活を説明し入国後も住居・各役所届出などについて説明する。			
8.2	学生の心身、 健康管理等のサポート体制が整備されて いる。	Ⓐ B C	整備している。	医薬品など常備し、健康には注意している。		
8.3	日本社会を理解し、 適応するための取組みを行っている。	A Ⓑ C	授業の中でも日本で生活するための規則など自国と比較しながら理解を深める。			消防署での防災体験今後学生が増えた場合、警視庁安全課の方を招き、日本での規則を説明していただく。
8.4	留学生活に関するオリエンテーション を学期始、 学期末に実施し、 また毎月学生調査を行い、 在籍者全員の所在と生活状況を把握して いる。	Ⓐ B C	把握している。			
8.5	住居及び生活環境への支援を行っている。	Ⓐ B C	行っている。	衣食住などできるだけの支援を行う。		
8.6	母国の保護者 （支弁者） と適切に連携している。	Ⓐ B C	連携している。	病気・成績・出席不振の際、連絡している。		
8.7	健康、 衛生面について指導する態勢を整えている。	Ⓐ B C	行っている。	常備薬などを備え、軽い病気には対応できるようにしている。		
8.8	対象となる学生全員が国民健康保険に加入し、 併せて留学生 保険に加入している。	Ⓐ B C	国民健康保険は加入している。		入学時、在留資格更新時に保険証を確認する	
8.9	重篤な疾病や傷害のあった場合の対応、 及び感染症発生時の 措置を定めている。	Ⓐ B C	定めている。	引き続き感染症対策は教務・事務一体となって対処している。		

8.10	交通事故等の相談態勢を整備している。	(A) B C	整備している。			
8.11	危機管理体制を整備している。	(A) B C	整備している。			
8.12	火災、 地震、 台風等の災害発生時の避難方法、 避難経路、 避 難場所等を定め、 避難訓練を定期的に実施している。 防火管 理責任者を配している。	A (B) C	実施している。	今年度も防災体験を行う。防火管理責任者は講習をうける予定である。		
8.13	気象警報発令時の措置を定め、 教職員及び学生に周知してい る。	(A) B C	周知している。	地震の台風の際の諸注意は授業の中でも取り入れる。		
8.15	健康診断の予定と実施状況、 さらに、 診断結果において問題 があ った学生への対策をと っている。	(A) B C	実施している。	保健所で検診済み。		
8.16	母国の文化を尊重しつつ、 日本の文化を受け入れ、人間形成 につ ながる指導やアドバイス ができている。	(A) B C	できている。	今年度から中国以外からの学生も入学してきた。学生同士は初めて自国以外の文化・習慣を聞くので、驚くことも多いようだが、お互いに異文化に触れることはよいことだと考える。		

総括	課題及び改善内容
	8-1.2.3.4.5:昨年と同様、事務担当・生活指導担当と相談し、受け入れ態勢を整えてきた。これからも継続して行い、当校在学中の安全を図る。 8-7.8.9: コロナ禍は終息してはいるが、学生の健康管理には毎日注意し、近くの医療機関とも連携している。 8-10：交通事故・病気に対しての相談体制は事務担当に通訳を依頼する。 8-11.12.13:危機管理体制については、学校で連絡網を作成してあるので、それに従って行う。年に一回の防災評訓で地震体験・消防訓練を行う。 8-15:区の保健所で年に一回、健康診断を行う。問題があった場合、保健所と連携して対応する。 8-16：授業の中でも、それぞれ出身国の伝統行事・文化習慣などについてお互いに聞き、理解を深める。

9. 進路に関する支援

点検・評価項目		評 価	ア． 現状認識	イ． アの根拠	ウ． 解決方法	エ．参考資料
9.1	進路指導担当者を特定している。	(A) B C	特定している。	担当教員を配置している。		
9.2	学生の希望する進路を把握している。	(A) B C	把握している。	当校入学前の面接でも進路・将来の希望を聞く。	入学後のオリエンテーション・授業時でも質問を受け、対応する。	
9.3	進学に関する最新の資料を~~備えられ~~、 学生が閲覧できる状態にある。	(A) B C	備えている。	送付されるパンフレットまた専門学校・大学の留学生担当者と学校内で面談を行う。		
9.4	入学時から一貫した進路指導を行っている。	(A) B C	行っている。	オリエンテーションの際、再度確認する。	受験に際して必要なことを説明する。	
9.5	進路指導を適切に行っている。	(A) B C	行っている。	学生と対話しながら、 悩みを聞き、アドバイスをする。		
9.6	進路相談の手順、 方法が明確になっている。	(A) B C	明確になっている。			
9.7	学校として組織的に進路指導に取り組む体制ができている。	(A) B C	できている。	JLPT・EJU対策、その結果を見て志望校など決める。その後志望理由・面接練習など行う。		
9.8	教育機関、 進学先との連携・協力ができている。	(A) B C	できている。	大学・専門学校とも連携できている。		

総括	課題及び改善内容
	9-1.2：進路指導については学生自身も進路説明会に参加し、体験授業にも参加し、学生自身で情報を得る。 9.3-7：その結果を学校に持ち帰り、進路担当教員・教務主任と相談し、最終決定ができるようにする。さらに願書の書き方・志望理由・面接の指導も行う。 9-8：進学先の連携はさらに学校訪問などをして連携できるようにしていく。進路指導については、前年度に引き続き入学前の面接から進路希望の把握に努めてきた。来年度以降もJLPT・EJUで良い結果が出せるように授業を進めて、希望する志望校に進学できるようにする。

10. 入国・在留に関する指導及び支援

点検・評価項目		評 価	ア． 現状認識	イ． アの根拠	ウ． 解決方法	エ．参考資料
10.1	入管事務担当者を特定し、 その職務内容及び責任と権 限を明確に定めている。	(A) B C	定めている。	事務担当を特定している。		在留資格取次申請業務にかかわる研修会への出席
10.2	担当者は、 研修受講等により最新かつ適切な情報取得 を継続的に行 っている。	A (B) C	行 っている。	在留に関わる情報を得ている。		
10.3	出入国在留管理庁 により認められた申請等取次者を配置している。	(A) B C	配置している。			
10.4	出席状況の管理とフォロー体制が適切である。	A (B) C	適切に行っている。	欠席・遅刻の場合は学生に連絡をする。		
10.5	入管法上の留意点について学生への伝達、 指導等を定 期的に行 っている。	(A) B C	行 っている。			
10.6	在留に関する学生の最新情報を正確に把握している。	(A) B C	把握している。			
10.7	在留上、 問題のある学生への個別指導を行 っている。	(A) B C	行 っている。			
10.8	不法残留者、 資格外活動違反者、 犯罪関与者等を発生 させないための取組みを継続的に行 っている。	A (B) C	現段階ではこれに該当する者 はいない。	在留資格の更新	入学時に在学中の支弁能 力を有する者を募集する。	

総括	課題及び改善内容
	今年度は、初めて非漢字圏からの募集を行った。現在、日本留学希望者が増えている。良い学生を募集するためには、良いエージェントと提携することが必要だと思う。また、入学選考も重要で、日本語能力の高い学生を選抜する必要がある。

11. 教育環境

点検・評価項目		評 価	ア． 現状認識	イ． アの根拠	ウ． 解決方法	エ．参考資料
11.1	教室内は、 十分な照度があり、 換気がなされているとともに、 語学教育を行うのに必要な遮音性が確保され ている。	A B C	十分な照度がある。各教室には窓・換気扇も備えているので、十分な換気もできる。			
11.2	授業時間外に自習できる部屋を確保している。	A B C	確保している。			
11.3	教育内容及び学生数に応じた図書やメディアが整備し、 常時利用可能である。	A B C	メディアに関してはこれから設置する予定である。			
11.4	視聴覚教材や IT を利用した授業が可能な設備や教育 用機器を整備している。	A B C	現段階ではオンライン授業に対 応できる設備の設置のみである。			
11.5	教員及び職員の執務に必要なスペース を確保している。	A B C	確保している。			
11.6	同時に授業を受ける学生数に応じた数のトイレを設置している。	A B C	設置している。			
11.7	法令上必要な設備等を備えている。	A B C	備えている。			
11.8	廊下、 階段等は、 緊急時に危険のない形状である。	A B C	問題ない。			
11.9	施設、 設備の定期的な安全点検が行われている。	A B C	行われている。			
11.10	学校の衛生管理を行 っている。	A B C	行っている。			

総括	課題及び改善内容
	ITを利用した授業も、これから取り入れていきたいと考えている。アニメ・ドラマの画面を使って、日本語を考え、グループワークできるようにしたい。

12. 入学者の募集と選考

点検・評価項目		評 価	ア． 現状認識	イ． アの根拠	ウ． 解決方法	エ．参考資料
12.1	入学者の募集活動が告示基準に沿 って適切に行われて いる。	(A) B C	行われている。			
12.2	理念・教育目標に沿 った学生の受入方針を定め、 年間 募集計画を策定している。	A B (C)	策定している。			
12.3	機関に所属する職員が入学志願者に対して情報提供や入学相談を行 っている。	(A) B C	行っている。	仲介会社の方と面談し、お互いの会社概要を理解し、信頼を築く。		
12.4	教育内容、 正確な学校情報、 求める学生像、 及び応募 資格と条件が入学希望者の理解できる言語で開示され ている。	A (B) C	開示されている。これからは様々な言語に対応したい	中国以外からの募集が増えてきたため		
12.5	海外の募集代理人 （ エージェント等） に最新、 かつ、 正確な情報提供を行うとともに、 その募集活動が適切 に行われていることを 把握している。	A (B) C	把握している。	募集担当者がエージェントに入学に必須条件、入学してほしい学生を説明している。		
12.6	入学選考基準及び方法が明確化され、適切な体制で入学選考を行 っている。	A (B) C	入学選考方法は明確化し、入学選考を行っている。			
12.7	学生情報を正確に把握し、提出された根拠資料等により確認を行 っている。 不法残留者を多く発生させてい る国からの志願者については、学校関係者 （職員等）が面接などの調査を行うよう努めている。	A (B) C	確認している。昨年初めて中国以外の国から募集を行い、今年度から入学している。	不法残留資格外活動を違反に対する処分は厳しく行う。	今年度は日本語能力がある学生を信頼できるエージェントから少しずつ採用した。	
12.8	入学志願者の学習能力、 勉学意欲、 日本語能力、 経費 支弁能力等を根拠資料で確認する等、 適切な方法によ って確認するとともに、 受け入れる コースの教育内容 が志願者の学習ニーズと合致することを確認している。	A (B) C	確認している。	これからも継続していく。現地の日本語学校の日本語教育も見直す必要性を感じる。	提携しているエージェントと教え方を共有する。	
12.9	選考料、 入学金、 授業料、 その他納付金の金額及び納 付時期、 並びに学費以外に入学後必要になる費用が明 示されている。	(A) B C	明示されている。			募集要項に明記
12.10	関係諸法令に基づいた学費返還規定が定められ、公開 されている。	(A) B C	公開されている。			募集要項に明記
12.11	入学者の募集について、今後の見通しが安定している。	A (B) C	提携しているエージェントから、良い学生を紹介してもらうことが前提である。	日本語能力が高い学生であれば、大学への進学も可能となる。	入学時の選抜方法	

総括	課題及び改善内容
	昨年度は中国国内に事務所を設置し、中国国内からの募集は厳しく、限られた人数しか募集できない。そのため、中国以外の国からも募集を試みた。面接は行い、日本語能力・留学目的が明確な学生、さらに支弁能力がある学生を各エージェントから数名ずつ選抜した。日本人の日本語に慣れていないエージェントから申し出があったように、現地の日本語学校で、学東アカデミーが行っている日本語教育を共有できるようにしたい。

13. 財務

点検・評価項目		評 価	ア． 現状認識	イ． アの根拠	ウ． 解決方法	エ．参考資料
13.1	財務状況は、 中長期的に安定している。	(A)B C	安定している。			
13.2	予算・収支計画の有効性及び妥当性が保たれている。	(A)B C	保たれている。			
13.3	適正な会計処理、 監査が実施されている。	(A)B C	実施している。			
13.4	設置母体と学校の経営が、 明確に区分されている。	(A)B C	区分されている。			

総括	課題及び改善内容
	現在の財務状況は安定している。今年度に続き、来年度も南アジアの学生数が増える。当然、不法残留資格外活動違反に触れないようにするためにも、信頼できるエージェントから選抜する。お互いに信頼関係ができていれば、学生も定期的に送ってくれると思う。

14. 法令遵守

点検・評価項目		評 価	ア． 現状認識	イ． アの根拠	ウ． 解決方法	エ．参考資料
14.1	法令遵守に関する担当者を特定している。	A(B)C	特定している。			
14.2	教職員のコンプライアンス意識を高めるための取組みを行っている。	A(B)C	行っている。			
14.3	個人情報保護のための対策をとっている。	(A)B C	取っている。			
14.4	出入国在留管理庁、 関係官庁等への届出、 報告を遅滞なく行っている。	A(B)C	遅滞がないように努めている。			

総括	課題及び改善内容
	開校時より現在まで関係省庁への報告は、遅滞なく行うように努めているが、来年度はさらに注意を払う。

15. 地域貢献・社会貢献

点検・評価項目		評 価	ア． 現状認識	イ． アの根拠	ウ． 解決方法	エ．参考資料
15.1	日本語教育機関の資源・施設を利用した社会貢献・地域貢献を行 っている。	(A)B C	今年度から非漢字圏の学生も入学し、地域の方たちも関心を持っている。		来年度からは文化の紹介を行っていきたい。	
15.2	学生ボランティア活動へ の支援を行 っている。	A (B) C	行っていない。	ボランティア活動をしたことがある学生が少ない。	ボランティアの意味を考え、何をするのかを学生たちで相談する。	
15.3	日本語学校について地域住民の方々 に理解を促す働き かけができている。	(A)B C	町内会に入る際に町内会の方々にどのような学校かを説明した。今年度は取材を受けた			
15.4	地域の文化施設や自然、 伝統行事等を学生指導に取り 込み、 活用できている。	(A)B C	15.1に参照			

総括	課題及び改善内容
	学校の周辺は静かで環境も良い。現在在籍している学生はアルバイトを始めた学生もいる。学校以外での日本人との交流も少しずつ増えている。日本語を実際に使うことができるので、日本語の学習にも役に立つと考えています。日本で生活するために、どのようにコミュニケーションを取ればよいかについても、授業内で話している。周辺の住民にも「日本語学校」という存在を理解してもらうようにこれからも教職員・学生共に交流を深めていきたい。これは学東アカデミーが掲げる教育目標・教育理念に通じるものである。

16. 学校情報の公開

点検・評価項目		評 価	ア． 現状認識	イ． アの根拠	ウ． 解決方法	エ．参考資料
16.1	ホームページ等での学校情報を適正に公表している。	A(B)C	公表している。これからは多言語で公表しなければならない。	非漢字圏入学希望が増えているため		
16.2	法令上、 または社会通念上、 適切な情報を公開してい る。	A(B)C				
16.3	入学希望者 へ の誇大な表現、 不適切な表現などがない。	(A)B C	適切な表現をしている。		今後も適切な表現で学校を運営していく。	

総括	課題及び改善内容

	今年度も年度末に授業に余裕があるため、校外学習を予定している。その際には日本の習慣・文化も直に体験し、授業でも発表できるようにしたい。

II. 総合評価と改善計画総合評価

【達成状況】
今年度で開校して4年目を迎える。昨年度までは中国の学生だけであったが、今年４月からは、南アジアの学生が入学してきた。 最近南アジアから学生の能力は以前と変わっているように思い、4月期生は様子を見るために申請人数は少なめにした。 10月期生からエージェントからの問い合わせも増えたが、日本語能力の高い学生だけ受け入れることにした。 全体的見ると、やはり文字などは難しいが、来年７月のJLPTを目指し、また大学進学という目標に向かって、頑張っているように思う。
【課題・改善計画等】
上記で述べたようにやはり非漢字圏の学生は、文字については不利な面もある。当校オリジナルの教材を渡して、不足の部分は補っているが、なかなか難しいところがある。 しかしそれぞれ進学、JLPT N2合格という目標を持っているので、いかにして合格に導くかが教師に与えられた大きな課題である。 これを達成するために、教師が一致した教え方で授業を行うということが大きな課題であると考える。

Ⅲ. 実施時期

年1回　毎年2月実施

Ⅳ. 実施体制

実施統括責任者：校長

実施担当者： 教務主任・在留事務担当・生活指導担当・学生募集担当・経理担当

Ⅴ. 実施体制概要

①実施月それぞれ1か月前に校長が実施についての指示を出す。
②それぞれ実施担当が、計画通り自己点検を実施。
③結果を集計し、共有する。
④全体会議にて、結果を検討し、改善案をまとめる。
⑤会議で決定した改善案を学校の運営、教育に反映させるため、関係各部署にて協議し、具体策を校長に報告する。
⑥校長は設置者に自己点検・自己評価について報告する。
⑦設置者は結果を翌年度の運営方針に反映させる。

Ⅵ.第三者評価の実施

校内で自己点検及び評価を実施するとともに、第三者機関（日本教育振興協会等）による第三者評価を受けるべく努める。

Ⅶ.公表方法

評価の結果は、当校ホームページに公表する。